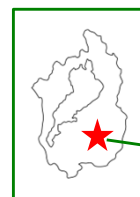


背景・課題

滋賀県では、化学肥料・化学合成農薬使用を従来の半分以上にした「環境こだわり農業」の推進に取り組んでおり、その中でオーガニック農業を「環境こだわり農業」の柱の一つに位置づけ本格的な拡大を目指している。

このような中、日野町では、雑草防除などオーガニック米栽培における省力化体系が確立していないことから、取組が少ない状況であった。

そこで、スマート農業機械をはじめとする省力化に資する技術を導入し、日野町におけるオーガニック米栽培体系の確立を目指している。



日野町

構 成 員

農業者 5名、グリーン近江農業協同組合、滋賀県東近江農業普及指導センター

品 目

水稻

目指すグリーンな栽培体系

日野町地域における水稻オーガニック栽培の省力化体系を確立し、取組面積を拡大する。

取組の内容

生産

日野町ではオーガニック栽培体系を確立するため、以下の技術実証に取り組んだ。

- ①乗用型水田除草機や抑草ロボットなどの省力機械を使用し、雑草防除技術を実証し地域に適する省力機械を選定する。
- ②害虫の発生抑制や畦畔法面の大きい山間地での畦畔管理作業の削減のため、防草シートを選定する。
- ③雑草抑草の深水管理を作業時間削減のため、自動給水栓による水管理の自動化を実証する。
- ④地帯や土壌条件の異なるほ場において、本県育成品種「きらみずき」に適応したオーガニック栽培の施肥体系を実証する。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組時期		オーガニック米栽培										

①雑草防除方法の選定と確立

乗用型除草機



抑草ロボット



②防草シートによる畦畔除草の省力化



③自動給水装置による水管理の自動化



④施肥体系の確立

地帯や土質の異なる条件で肥料試験を実施する。



普及に向けた取組

交付金事業の実施により水稻でのオーガニック栽培技術体系を活用し、日野町およびJAグリーン近江管内でのオーガニック栽培取組面積の拡大を目指す。

問い合わせ先

グリーン近江農業協同組合（研究会事務局） TEL：0748-33-8453
滋賀県東近江農業農村振興事務所 TEL：0748-22-7728

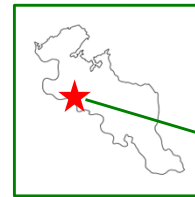
中丹米振興協議会（京都府福知山市、舞鶴市、綾部市）

R4補正
R5当初

79

背景・課題

- 「みどりの食料システム戦略」が策定され、全国的に環境負荷低減した持続的な農業生産が推進される中、本地域においても環境に配慮するとともに新たなブランド価値を付与した農業の振興を図る必要がある。
- 水稻の新品種・環境負荷低減技術・省力化技術の導入による栽培体系の確立、競争力のある産地意識の醸成が課題。



福知山市

構成員

J A 京都にのくに、J A 京都福知山支店、京都府中丹広域振興局、京都府中丹東・中丹西農業改良普及センター、J A 京都中央会、全農京都府本部・京都府農業共済組合中丹支所、綾部市、福知山市、舞鶴市

品目

水稻

取組の内容

生産

- 環境にやさしい栽培技術
京都府オリジナル品種「京式部」の栽培
機械式除草機（乗用型除草機等）
カバープランツを利用した栽培
害虫発生状況のモニタリング
気象データのモニタリング
- 省力化に資する技術
自動抑草ロボット

- 【化学農薬・化学肥料の使用低減】
- 【化学農薬（除草剤）の使用低減】
- 【化学肥料の使用低減】
- 【化学農薬の使用低減】
- 【化学農薬の使用低減】

【除草作業時間の削減】

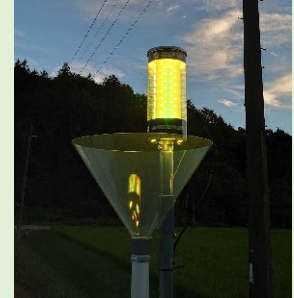
取組時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月



オリジナル品種「京式部」の栽培



自動抑草ロボット導入で省力化



誘殺灯を用いて防除適期の確認

普及に向けた取組

経年的に、各取組について現地実証試験の効果検証や評価を行い、最終年度に栽培マニュアルの充実化を図る。普及にあたっては、協議会で作成する産地戦略に基づき、各構成員が役割分担しつつ、連携の上、環境負荷低減技術及び省力化技術の産地導入拡大を図る。

問い合わせ先

J A 京都にのくに営農経済部 TEL：0773-42-1814

加東市農業再生協議会（兵庫県加東市）

R4補正
R5当初

80

背景・課題

加東市における有機農業の取組面積の合計は徐々に増加しているものの1,385aで市内の耕作面積の約0.6%となっている。慣行農法に比べ技術的な難しさ、販路が少ないこともあり有機農業への参入には困難がある。

成果目標

有機農業面積(水稻)(R4→R7)：992a→1,092a (+10%)

取組の内容

生産

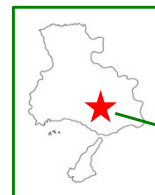
- 有機農業に関するセミナーの開催
有機農業に習熟している講師を招き、現在環境保全型農業に取り組んでいる農業者に対し、有機農業に関するセミナーを開催する。
- 新規有機農業者参入への支援
農業者又は農業を始めようとする者へ有機農業の技術指導を行う農業者に対して謝礼を支給する。

流通

- 有機農産物の販売促進セミナーの開催
市内のスーパー、直売所の関係者を対象に、有機農産物の表示制度、販売戦略及び加工に関するセミナーを開催する。

消費

- マルシェでの有機コーナーの設置
市内で有機農業に取り組む農業者に対して、市が令和5年度に開催を予定しているマルシェへの出店を促し、有機農産物の消費拡大を図る。



加東市

構 成 員

JAみのり、区長会、農会長、農業委員会、認定農業者協議会、東播土地改良区、消費者協会、JA女性会、生産調整方針作成者連絡会、兵庫県農業共済組合、加東市（事務局）

品 目

水稻



山田錦への理解を深める
消費者イベントの様子

取組時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月



有機農業に習熟している講師を招いてセミナーを開催



スーパー、直売所関係者に表示制度・販売戦略・加工に関するセミナー開催



市内外の消費者を対象にマルシェにて有機農産物コーナーを設置

普及に向けた取組

市内で環境保全型農業に取り組む農業者に対するセミナー、新規に有機農業に参入する農業者への技術支援、有機農産物の販売促進セミナー、市内で有機農業に取り組む農業者に対する市主催のマルシェへの出店の促進などにより、有機農業に取り組む農業者の増加と消費の拡大に取り組む。

問い合わせ先

加東市産業振興部農政課 TEL：0795-43-0518

上郡町（兵庫県上郡町）

R4補正
R5当初

81

背景・課題

上郡町の農業を取り巻く状況は、高齢化、離農、耕作放棄地の発生など多くの課題がある。一方で、農業・農村は多面的機能、公益的機能を有しており、この機能を活用し農業・農村を維持する取組が必要となっている。有機農業を推進することにより各課題の解決と、自然環境機能の増進や環境負荷の低減に向けた環境と調和のとれた農業生産の普及に寄与する。



上郡町

構成員

上郡町、上郡町有機農業推進協議会等

品目

水稻等

成果目標

- 学校給食での有機食材の利用（R4→R7）：0日→60日
- 有機JAS認証農家（R4→R7）：0名→2名
- 有機取組団体の設立による交流（R4→R7）：0団体→1団体
- 試験ほ場整備での新規就農者・有機農業者（R4→R7）：0名→2名

取組の内容

調達

「子どもと自然環境を大切にすまち」の実現に向けて、発酵堆肥や未利用資材を活用し、土づくりの取組を試行しつつ、環境に配慮した農業を実施する。

生産

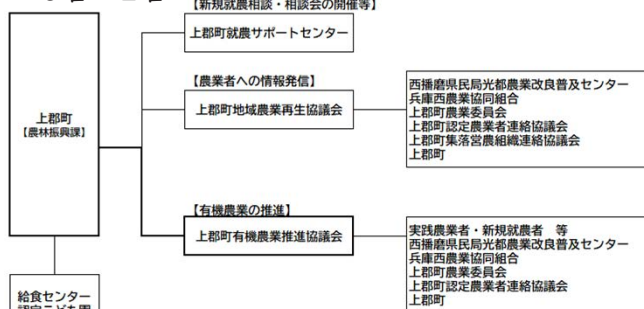
有機農業実施先進地への視察、空き農地を使用し団地化・有機ほ場への転換、堆肥による土づくり検証や試験ほ場の整備を行う。また、実施農業者による有機JAS認証やひょうご安心・推奨ブランド認証取得を目指すための研修会を開催する。

流通

生産者への意向把握や流通コスト低減に向けて検討を行う。町内地産地消登録店におけるメニュー開発等を支援する。

消費

町内こども園・給食センター等への提供、JAや直売所等に地産地消・有機農産物販売ブースの設置、ふるさと納税やSNS等による情報発信を行う。



取組時期



土作に必要な資材を調達



有機農業に向けて現地視察



こども園に食材を納品



給食の食材として提供

普及に向けた取組

有機農業に対する認知度向上や持続可能性に課題があるため、以下の取組を行っている。

- ・ 地域住民・農業者の有機農業に対する意識向上を目的とした有機農業イベントの開催
- ・ 有機等農作物を利用した加工品の開発
- ・ 近郊都市部への配送コスト低減実証
- ・ 慣行栽培から有機栽培への転換などの実証を行う試験ほ場の設置

問い合わせ先

上郡町役場 農林振興課 TEL：0791-52-1116

KOBEオーガニック推進協議会（兵庫県神戸市）

R4補正
R5当初

82

背景・課題

神戸市では、西北神地域を中心に野菜や水稻などの有機農業が点行的に行われている一方、消費地と農地が近い都市近郊型農業が可能のため、新規就農希望者が多く、有機農業をめざす者も多い。今後、有機農業経営を安定的に継続・拡大するためには、農業者のみならず流通・加工業者や地域内外の住民、消費者を巻き込んだ取組を推進する必要がある。

成果目標

有機農業面積（R4→R7）：23ha→30ha（+30%）
有機農産物の販売量（R4→R7）：100t→130t（+30%）
有機農業者数（R4→R7）：22人→31人（+41%）

取組の内容

生産

- 既存有機農業者、新規有機農業希望者向け有機農業技術等講習会の開催
- 栽培試験等による新たな栽培技術の実証、成果の普及
- 販路拡大に向けた出荷資材の統一等共同出荷体制の整備
- 有機JAS認証取得支援、生産出荷効率化ソフトウェア導入等

流通

- 加工業者と連携した有機農産物の加工品試作
- 加工品有機JAS認証取得支援、流通業者等との意見交換会、商談会への出展等

消費

- 駅前や公園でのマルシェ等の開催
- 消費者向けのセミナー、生産地見学会等消費者と生産者の交流促進



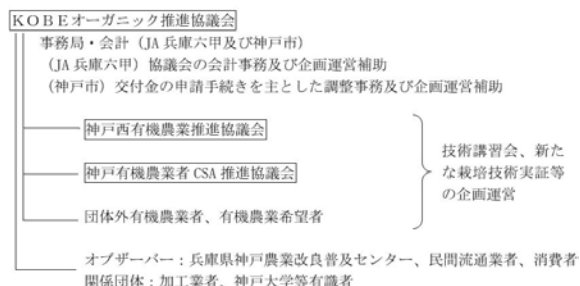
神戸市

構 成 員

神戸西有機農業推進協議会、神戸有機農業者CSA推進協議会など有機農業者グループ、JA兵庫六甲及び神戸市（事務局）

品 目

野菜、水稻 等



取組時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月



技術講習会の様子



農作業の様子



展示会への出展



マルシェの様子

普及に向けた取組

神戸市は人口100万人以上の政令指定都市でありながら、野菜や水稻などの有機農業が行われている一方、農業者に比べて消費者が圧倒的に多い。

今後、有機農業者数・面積・販売量拡大に向けて地元産の有機農産物の消費、学校給食への利用など地産地消の観点も含めた普及啓発を進めていく。

問い合わせ先

神戸市経済観光局農水産課 TEL：078-984-0379

朝来市（兵庫県朝来市）

R4補正
R5当初

83

背景・課題

高齢化による担い手不足等の課題解決のため、「朝来市農業推進戦略プラン2019」を策定し、若者を中心に研修・就農環境を整え農業所得の向上、儲ける農業を目指す方針としている。

有機農業の推進が持続可能な農村環境づくりの基本となり、また、農作物の高付加価値化と農家の収入増加に寄与することを目的に、有機農業への理解の向上、面積の拡大、農家数の増加に繋がるように取り組む。

成果目標

- 有機農業面積(R4→R7)：10ha→15ha(+50%)
- 有機農業者数(R4→R7)：6人→11人(+80%)
- 学校給食での無農薬米の提供(R4→R7)：0回→完全実施

取組の内容

生産

BLOF 理論に基づく有機栽培技術の講習会（生産方法・ほ場管理方法等）を開催

流通

有機農産物の取扱業者向けの市内産有機農産物の展示会の開催

消費

学校給食やこども園での有機農産物を利用した食育を実施。マルシェ開催や学校給食での利用により、新規就農者を中心に販路を確保。地域住民に対する、有機への理解度や購買意欲向上に向けたシンポジウムを開催



朝来市

構成員

朝来市

品目

水稻、野菜 等



取組時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月



有機栽培技術指導(BLOF)



有機農産物展示



マルシェの開催

普及に向けた取組

有機農業啓発のシンポジウム、有機農産物を主とするマルシェ等を開催することにより、有機農産物に対する正しい理解を深め、消費について意識改革を行う。また、BLOF理論講習会を開催することにより、市内農家における有機農産物の生産を促進し、「生産」→「流通」→「消費」の循環体制を確立する。

問い合わせ先

朝来市産業振興部農林振興課 TEL：079-672-2774

宇陀市（奈良県宇陀市）

R4補正
R5当初

84

背景・課題

宇陀市には、農業法人グループや企業出資法人などを中心に、県全体の有機JAS認証農家数の45%が存在しており、特に伊那佐東部地区では、奈良県が進める「特定農業振興ゾーン」制度を活用した軟弱野菜主体の有機農業産地づくりに取り組んでいる。

成果目標

「特定農業振興ゾーン」を核として有機農業の生産・流通の改善を図る。取組を進めることにより、有機農業の生産・消費拡大を加速化し、中山間地域における有機農業の先進拠点を創出する。

目標 有機農業面積（R3→R6）：21.2ha→21.7ha（+2.4%）

有機農産物の販売量増加（R3→R6）：275.2t→283.5t（+3.0%）

有機農業者数（R3→R6）：15人→18人（+20.0%）

取組の内容

調達

市内畜産農家と連携して自家製堆肥の使いやすい形態を検討し、流通・栽培を実施。

生産

電場冷蔵庫（電場によりチルド状態を保持）の利用による収穫物の長期鮮度保持を検討し、出荷ロスを削減する。

流通

規格外品を利用したペーストの2次加工品開発等による有効活用促進、学校給食への活用を実施。

消費

販路拡大のため、市内マルシェやフードフェスへの出展を支援。PRホームページの拡充や直売所への有機農産物コーナーの設置及びシンボルマークの運用に取り組む。



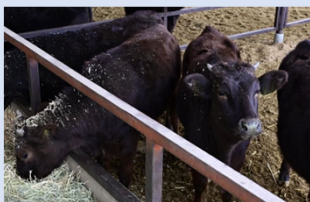
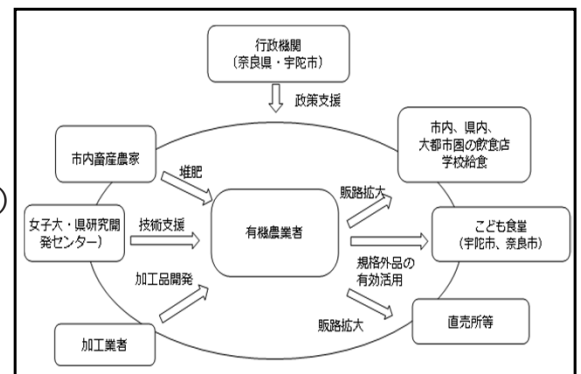
宇陀市

構成員

宇陀市

品目

野菜、水稻



市内畜産堆肥の流通試験



電場冷蔵庫を活用した鮮度保持試験



加工品開発や学校給食への活用



HPの活用や展示会への出展

普及に向けた取組

地域の有機農業者の課題であるフードロス対策や販路に関する取組をこれまで行って来た。令和5年度は学校給食への提供やアンケートの実施、そして市内の畜産堆肥の流通試験を通して地域と有機農業の距離を近づけつつある。今後は担い手の対策、学校給食などの食育を強化することで、引き続き、有機農業産地づくりを核とした地域にあった持続可能な農業の定着・拡大に取り組む。

問い合わせ先

宇陀市農林商工部農林課 TEL：0745-82-3679

かつらぎ町（和歌山県かつらぎ町）

R4補正
R5当初

85

背景・課題

かつらぎ町は、年間通して様々な品目の果樹栽培が行われる総合果樹産地として発展してきたが、近年、農業者の高齢化・減少や耕作放棄地の増加、後継者不足の課題に直面している。そこで、持続可能な農業生産を目指すため、現在取り組んでいる有機農業の拡大に取り組み、新規就農者の確保、消費拡大を図る。

成果目標

- 有機農業面積 R4 728a ⇒ R7 778a
- 有機農業者の増加 R4 12名 ⇒ R7 13名

取組の内容

- ・有機農業実施計画の作成に向けた検討会の開催
…関係者による有機農業実施計画案の検討。
- ・労働力確保に向けた外部労働力を呼び込む取組
…町外の農業に興味のある人を労働力として雇用するため宿泊費の支援。

生産

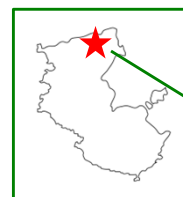
未利用有機資材の活用
栽培技術の指標作成

流通

地場での加工品の製造

消費

学校給食
有機農業をテーマとしたマルシェ



かつらぎ町

構 成 員

かつらぎ町

品 目

うめ、かき、キウイフルーツ



取組時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

普及に向けた取組

- ①生産：未利用有機資材の活用による肥料化。有機農業希望者への研修会開催。栽培暦の作成。
 - 加工残渣などの肥料化について肥料作成事業者との協議
 - 有機農業の有識者を招いた研修会の実施
 - うめ・かき・キウイフルーツなどの有機栽培の栽培暦の作成
- ②加工・流通：有機農産物の加工品開発。
 - 有機農産物の規格外果実の加工について加工事業者との協議
- ③消費：学校給食への有機農産物の活用。有機農業をテーマとしたマルシェ開催。
 - 学校給食への有機農産物の活用についての給食担当者との協議
 - 有機農産物を販売するためのイベント実施についての協議



問い合わせ先

かつらぎ町産業観光課農業振興係 TEL：0736-22-0300